

4 緑化と外来種問題について

緑化の役割は、言わば、人間活動により改変された自然環境に緑化植物を導入し、環境を修復し、保全することです。

そして、緑化された空間は、地域の緑の景観として、また、野鳥や昆虫など多様な生きものの生息環境としても役立つことから、緑化する場所の立地に適した植物を選定することが大切です。そのため、植栽する植物種は、なるべくその土地の環境条件に適した、本来その土地に生育していた植物種の中から選定するよう配慮することが基本となります。

現に、これまで緑化のために導入された「移入種」が、侵略的に地域の生態系に悪影響をもたらしている事例も少なくありません。例えば、かつて荒廃山地の復旧に使われたニセアカシア（ハリエンジュ、北アメリカ原産）は、その旺盛な繁殖力で周囲の生態系への影響が特に大きいとされる「侵略的外来種ワースト100」（日本生態学会）に選定されています。



ニセアカシア

参考文献： 『外来種ハンドブック』 日本生態学会編、 村上興正・鷲谷いづみ監修、地人書館日本における外来種問題の現状と課題がまとめられているほか、「侵略的外来種ワースト100」などのリストが紹介されています。